

壊された

くらし

新自由主義の現場から

「コロナ禍で仕事が減らされたうえに、物価高騰の影響でくらしが追い込まれる」。28日、東京都台東区のハローワーク上野前で、仕事探しや手続きに来た人たちに実情を聞きました。(新井水和、武田祐一、田中真壁)

ハローワーク前

30代の男性は配達の合間に、雇用保険申請のためハローワークに寄りました。自転車の前かごには、飲食宅配代行サービスのロゴの入った四角い大きなリュックがありま

手取り額が半減

男性はサービス業で働き、失業して間もないという。「暮らしの面でものすごく困っている。特に物価の上がり方が半端ではなく、影響は大きい」と語りました。

コロナ禍で仕事減

物価高追いうち

つ、午後5時から午後9時にできる清掃の仕事を探しています。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響でホテルの宿泊客は激減。客室などの清掃に「月20日入っていました。今は半分になりました。手取りは10万円くらいにしかありません」と話します。アパートは風呂なしで家賃は6万円。そこから水光熱費を引くと、食入っていくのもぎりぎりの状況です。「銭湯代は480円

もするので月に1、2回だけ。あとは部屋で体を拭いています」

年金を受給できる年齢ですが、手続きに不備があつて年金保険料の払い込みが足りず、無年金になっています。

「特別支給学校で働いていたときは、持ち帰って仕事をしたり、木材を自分で買って教材をつくらせたりすることもありました。特別支給学校で働いていたときは、持ち帰って仕事をしたり、木材を自分で買って教材をつくらせたりすることもありました。」

女性は仕事にやりがいを感じていたため、現在も児童福祉関係の仕事を探しています。「理想の給料は手取り24万円ですが、民間だと額面で18万〜24万円のところが多い。給料をもっと上げてほしい」といいます。

足立区から来た男性(52)は「いま働いているところがブラック企業だから、転職したいと思って情報収集に来た」と話します。「所得税や消費税など、税金が高すぎる」と訴えました。



ハローワーク上野の建物に入る利用者。26日、東京都台東区

は、公立の特別支援学校で肢体障害のある子どもたちに教えていたが、体調を崩して退職。「休職を挟んで1月に退職しました。傷病手当が出るまでは収入がないのに、健康保険料が引かれて大変でした」と振り返ります。

特別支援学校で働いていたときは、持ち帰って仕事をしたり、木材を自分で買って教材をつくらせたりすることもありました。特別支給学校で働いていたときは、持ち帰って仕事をしたり、木材を自分で買って教材をつくらせたりすることもありました。

女性は仕事にやりがいを感じていたため、現在も児童福祉関係の仕事を探しています。「理想の給料は手取り24万円ですが、民間だと額面で18万〜24万円のところが多い。給料をもっと上げてほしい」といいます。

足立区から来た男性(52)は「いま働いているところがブラック企業だから、転職したいと思って情報収集に来た」と話します。「所得税や消費税など、税金が高すぎる」と訴えました。